

④7 Overview of the Dictionary and Lexical Knowledge Base Research

Y.Tanaka(ICOT,日本)

発表要旨

本論文では、我々の辞書と語彙知識ベースの構成および内容の概要を述べる。ICOTでは、自然言語処理に関し主に2つの目標がある。談話理解に関する実験的な試みと、効率のよい汎用自然言語処理システムの開発である。論理型プログラミングに基づく談話理解システムは、主に談話理解の基本的な機構とそれらの並列処理アルゴリズムに焦点をあて、1982年からICOTで開発されてきた。これらの研究結果を確かめるため、DUALSと呼ばれる実験システムが開発されている。これらを統合したのが、自然言語処理のための汎用ソフトウェア環境LTB(Language Tool Box)である。我々は、これらのシステムのための辞書を開発してきたが、1つの目標として、これらを統合し、実用規模の意味辞書を生成することがある。本論文では、DUALSとLTBのための辞書と語彙知識ベースの概要を述べ、今後の研究予定と開発方向について述べる。

質疑応答

質問：深層格体系について詳しい説明をお願いしますか？

回答：深層格は、任意格をあわせて30以上あります。必須格は、例えば、行為者、対象、通過点、または厳密には格ではありませんが記述対象などがあります。また任意格は、体系として閉じたものにするために導入しています。